

議題 第3次男女共同参画推進プランの令和7年度実施状況について

大内主事	(議題に基づき内容を説明)
長谷川委員	P. 35、36 の中学生・高校生のための人権啓発セミナーは苦勞されているのが分かる。高校は実績「0」だったので残念である。今後の方向性に記述もあるが、P. 38 に学校教育課の取組の課題で、社会の動向にアンテナを張り、常に学校現場のニーズに合った内容を取り入れていく必要があると記述があるが、まったくそのとおり。デートDVに関しては、学校現場では話題になったことはない。ただ、デートDVは現状に合わないテーマになっている気がする。小学校高学年を対象に、ジェンダー、平等に関する講座が大変好評であると記述があった。中学、高校と知的レベルに合わせて男女共同参画、ジェンダー、平等を分かりやすく説明し、よく理解してもらう必要があると思うがいかがか。
新田課長	そのとおりと思う。今年度は、人権に重きを置いてDVの要素も入れつつ、人権とはそもそもどういうことなのか、講師からも分かりやすく説明してもらっている。学校の要望も入れつつ検討したい。
長谷川委員	P. 87 から P. 92 で福祉課の取組の記述があるが、私になるほどと思った。残念ながら課題の欄は空欄であったが、どんな反応だったか。続いて、P. 89 と P. 90 には教育総務課の取組の記述があり、よくやっていると思う。課題も整理されていて、こういった児童もいるのだと思った。入学してくる新1年生にも利用ができることを漏れなく周知し、つつがない学校生活を送ることができるよう支援するなど、丁寧な対応をされている。P. 91 に地域経営課の取組の記述がある。課題や今後の方向性・課題についての記述がないが、理由を聞かせてもらいたい。
大内主事	P. 91 と P. 92 であるが、まちやまに設置している生理用品の無料配布については、令和6年度の実績として1,311枚、今年度は1,470枚であった。150枚程度配布枚数が増えた。今後も設置継続をするので記述はしなかった。
長谷川委員 新田課長	実際に使っている人がどういう思いでいるのか、市の思いが伝わってこない。生理用品の無償配布について、市の方針として多額の経費をかけずに取り組んでいる。まちやまは、業者の好意によりモデル的に置かしてもらっている。他の公共施設にも広めるかという話もあったが、経費がかかることを踏まえて実施に至っていない。
長谷川委員	事情は分かった。各企業に社会的貢献の一環として宣伝し、金を出してもらえば良いし、市としても予算化できれば良いと思う。この二点を踏まえ拡充方向に進んでもらいたい。
杉原会長	デートDVと中学生の話は大変かなと思う。カスハラやパワハラの方が身近に感じるのではないかと思う。人権と言っても、現場とのやり取りが離れている。セミナーなどで考えてもらう。このような場の提供を考える必要がある。生理や貧困の話も、生理は恥ずかしいのでその話を避ける風潮がある。政策的にアナウンスすると変わっていくかもしれない。

和田委員	P. 2 の令和 6 年度と令和 7 年度を比較して、内容や周知方法で変化しているところはあのか。
大内主事	周知方法で変化しているところはない。内容はアロマスプレー作り体験で、講師一人がワークショップ形式で行っているため、募集人数を絞った。参加者の感想としては、ストレスとの向き合い方が理解できたや、機会があればもう一度参加してみたいなどのあった。
和田委員	P. 16 の参加者の年齢層と募集チラシの設置箇所はどこだったのか。
大内主事	年代は 30 代から 70 代まで様々だった。働いている世代からも多く参加してもらった。チラシの配布先は、健康面に気を使っている方が足を運びそうな、「カーブス」や「UMAMI」などに設置依頼をした。
和田委員	P. 36 のデート DV のところだが、周知する際はデート DV という単語を使っているのか。
大内主事	人権をメインとして後書きにデート DV を入れ周知した。
和田委員	どうして申し込みが少ないのかと考えた時、デート DV の単語からイメージするのが昭和な感じがする。実際、デート中の暴力という意味だけではない。表現を、好きな人の尊厳を奪わないためにや、相手を尊重できるようになるためになど、意識せずに言った言葉が傷つけていたりすることもあるので、もう少しそういう表現になると良いと思った。
新田課長	講座の内容が前年度と変わっている。前年度は、体を動かすことが好きな方を対象としたストレッチ系の内容だったが、今年度は、アロマというのに関係する内容だったため、結果的に参加者が少なかった。
杉原会長	健康系 YouTube を見たりする。体の健康には意識はある。ストレス系の YouTube はあまり見ない。ストレスは本人の努力で頑張れみたいな意識がある。事業 1 は働く女性のためとあり、女性の参加のみと思うが、事業 6 は男性が少ない理由はあるのか。
大内主事	事業 6 は男性も参加できると周知をしたが、女性の参加者が多くなった。チラシの作り方が女性よりになったのかもしれない。次年度は、男性の参加者を呼び込めるようにしていきたい。
杉原会長	身体と心の講座も必要になってくると思う。デート DV の意見はなるほどと思った。今の若者はどう見られるかもものすごく気にしている。SNS でバッシングされるのではないかなど、昭和の人とは考え方が違っている。女のスペースにいがたの講師だと本格的な DV の話になると思う。
西山委員	DV は人権擁護委員として啓発したいと思っているが、校長会に行っても人気がない。デート DV は、今から教えても良いのかという考え方の人が多い。人権擁護委員としては違った角度で DV を啓発していこう考えている。
佐藤委員	デート DV だとイメージが固まっている。人としての尊重の視点で話ができただ方が良い。
関根委員	子どもたちの相談相手は親ではなく生成 AI と聞く。SNS でも YouTube でも生活に関わってきており、良い面や悪い面などそちらの方に寄せていく時期かもしれない。

新田課長	時代の変化によって色々なところが変わってきている。ジャイカ・アフリカ・ホームタウン構想で市が相当な非難を浴びた。市が具体的に影響を与えることをしたわけではないが、SNS から誹謗中傷が広がった。今後は、新しく変化に対応したプランとする必要があると考えている。
杉原会長 大内主事	P. 29 と P. 30 であるが、今後の方向性として事業をやめるのか。 資料発送時は、事業廃止として検討していたが、公民館の会議後に継続事業となった。
杉原会長 大内主事	事業として効果があると思っているのか。 各公民館は事業を縮小する方向であり、ニーズを踏まえた結果、すぐではないが廃止するものも出てくると思う。
西山委員	P. 129 と P. 130 になるが、成果指標がバツになっているが、前と比べるとものすごく頑張っている。バツでなくとも良いのではないかな。
大内主事	達成目標と比較しマルかバツかになっているので、頑張っているでも目標を達成していないとバツになってしまう。達成状況は検討事項とさせていただきます。
新田課長	育児休暇は今では取得率が向上しているが、人事課が設定している期間が連続して1カ月以上となっているので、より高い目標値として設定しているため評価が厳しくなった。女性だけではなく男性も少しずつ取得率が上がっている。評価としてはバツだが成果は上がってきている。
和田委員 大内主事	P. 34 の児童の学びに寄り添う実施方法について、工夫点はあるのか。 講師の指導方法で、いくつも分類した家事カードを、男・女・共通に分けホワイトボードに貼ってもらう内容とし、グループワークの中で好評だった。
和田委員 大内主事	意識が浸透しつつあると課題にあるが、アンケートは取ったのか。 アンケートを取ったわけではないが、講師の感覚的などころである。学びの中で終着点が分かっており、意識が浸透しているとさせてもらった。
長谷川委員	新潟日報の記事にあったが、なぜ新潟を離れたのかという内容だった。若い女性が、古い価値観である食事の準備は女性の仕事ということが、新潟県では根強く、特に高齢者にその傾向が多いので、若い女性が県外に出るきっかけとなっているのではないかな。高齢者や中高年を対象としたジェンダー、平等を理解してもらえるセミナーなどを検討してもらいたい。
丸山委員	ジェンダーの問題ではなくて社会の問題だと思う。下田地域は苦勞をした年代の方は女性を大事にする。食事の準備も息子に任せている人もいる。シングルマザーは思春期の男の子に女性の下着も洗濯してもらっている。これで良いのかと思うのは、私自身もジェンダーへの理解が進んでいないからだと思う。
杉原会長 杉原会長	年配者を対象とした講座は興味のある人しか来ない。難しい問題である。 他に意見が無いようなので、原案のとおり決定する。

議題 市民意識調査の結果について	
大内主事 杉原会長	(議題に基づき内容を説明) 前回の調査から5ポイント改善したとあるが、P.96はかなり男女差がある。男性の改善があっても、女性の改善がなければ、全体としてどうなのかということになる。男女別でどれだけ改善したかは分かるか。
大内主事	調査の項目が男女別、世代別、地域別と分かれていて、分析が膨大の数になるので、総合的な差を拾ってきている。それぞれの分析はできなかった。
杉原先生	20ポイントの差があるような項目は意識の差があるので、項目によってはどのような動きがあるのか分析する必要がある。全体的に改善していることは良いことだと思う。
佐藤委員	P.4に回答してもらった総数764人の男女比や年代比の記述があるが、60代と70代で回収率が50パーセントである。令和4年度と令和7年度の調査を比較してバランスはどうなのか。
大内主事	令和4年度の調査の時の回収率は約39パーセントで、回答数は790人程度であった。年代もランダムにばらつきなく調査をしている。
佐藤委員 杉原会長	この結果を見たときに、60代70代の回答が多いのが分かる。色々な調査の傾向になるが、若い男性が回答しない。高齢者は男女ともに回答してくれる。このような調査では、このまま集計するのが多いと思う。
宮島委員 大内主事 永井委員	調査項目の「男らしいイメージ」は漠然としたものか、定義付けしたものか。漠然としたものである。真面目に答えると時間がかかる。若年層の回収率を上げるには、紙媒体ではなくスマホを使った方が良いと思う。
新田課長	かなりボリュームがあるので、若い方で途中で嫌になってやめた方もいるかもしれない。令和4年度の調査で70代の回答率が15.3パーセント、60代が23パーセント、50代が19.9パーセント、40代が16.7パーセント、30代が13パーセント、20代が11パーセントとなっていた。今回の調査では40代以下が非常に少ない。時代の変化によるものかもしれない。3年後も調査を実施するが、ハイブリットなやり方を検討したい。
杉原先生	今回の調査では高齢者の回収率が上がったことは良いことである。スマホ回答で問題数が多いのはいかがなものか。質問数を減らすのもひとつの手段かもしれない。
杉原先生	他に意見が無いようなので、原案のとおり決定する。
委員全員	～委員の任期終了に伴い、全員が一言挨拶～
杉原会長	以上で閉会する。